

ゆうこみゆき。



なるほどアイヌ文化トーク ソッコ de ソッコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソッコ(=お便り)形式で語り合います。



今月のテーマ アイヌレヘ(アイヌの名前)



イラスト/安田千夏

新たなスタートの春。このページも明るくリニューアル(拍手)！

ところで美幸さん、自分の名前が付けられた時、嬉しかった？…え？そんなこと覚えてるわけないって？だよ(笑)。でも、かつてのアイヌの人たちは覚えてみたい。そのワケは、誕生直後じゃなく、ちゃんとその子の個性が表れた頃に名前が付けられたから。雄弁な男になりますように。上手に刺繍ができませんように。一生食べ物に恵まれますように。そんな親の願いが込められた名前が多いけど、エピソードに因^よんで付けられたこともあったこと。たとえば「フツルレ(おばあさんが融かした)」という名前は、ヨチヨチ歩きの時、真冬に外に出て行って危うく凍死しそうになっていたのをおばあさんが発見し、懐で温めて生き返らせてくれたからなんですって。

かと思えば、すごく汚い名前も記録されている。アイヌの人たちは、子どもが死ぬのは、あまりにその子が可愛いから悪い神が魂を奪って連れ去ったからだと考えてたので、悪神を遠ざけるためにわざと汚い名前を付けたの。私が一番衝撃を受けたのは「エカシオトソパイ(おじいさんの肛門)」…きつと、この世で一番汚いものは…と考えに考え、そこに辿り着いたんでしょうけど…いやはや(笑)。



白老では、お爺さんがひどく酒によって禪^{まじ}を引きずりながら帰ってきたときに生まれたことで「エカシテバ(お爺さんの禪)」と命名されたコタンコロクル(村長)が記録されている。尊敬の的であるはずの村長としてはちょっと威厳が無い気がします。禪姿はインパクトあったんでしょうね。

改名は考えなかったのか？と思いついてみたが、病魔に憑かれたなどの理由で名前を変えた人もいたそうですが一度付いた名前は善し悪しに限らずほとんど変えなかったんだって。名前を付けるにあたっては、親戚や知人との同名は避け、死んだ人の名も忌み嫌われたとのこと。

名は一生の運命を支配するとされていたので、なるべく縁起の良い名前を選んで付けたら。祭壇の神々が付き添って守ってくれるという意味の「ヌサトゥレン」や火の神のように美しい顔になるように「アペナカ」と付けられた女性も。子を案じ、さまざま願いを込め付けられた名前だよ。私の名前「美幸」も「美しく幸せであれ」と叔母が付けてくれたの。思いと現実ギャップがあるけどね。私の曾祖母のアイヌレヘは「リヤシ」、「チトイカ」ですが、どんなエピソードで付けられたのかな？



- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。アイヌ民族博物館学芸課。日本口承文芸学会会員。趣味が高じて本連載の挿絵を担当。